

令和4年第6回教育委員会議事録

開催日時 令和4年6月23日(木)
午前9時30分～午前10時30分

場 所 やしお生涯学習館 多目的ホール

出席者 教 育 長 井 上 正 人
教育長職務代理者 加 藤 正 道
委 員 木 下 史 江
委 員 高 橋 洋 一
委 員 田 口 理 恵

事務局出席者 教育総務部長 荒 浪 淳
学校教育部長 山 本 誠
教育総務部副部長兼教育総務課長
千 葉 靖 志
教育総務部副部長 井 上 隆 雄
学校教育部副部長 高 橋 大 祐
社会教育課長 小 林 勝 巳
文化財保護課長 高 山 治
学 務 課 長 山 内 修
指導課長兼小中一貫教育推進室長
和 田 進
学校 ICT 推進課長 菅 谷 昌 史

○ 開会の言葉及びあいさつ 井上教育長

会議事項

1. 会議録の承認について

(1) 令和4年第5回教育委員会定例会分

【出席教育委員全員が承認】

2. 教育長諸報告について [別紙のとおり]

3. 議 題

議案第32号 [説明者 小林社会教育課長]

八潮市社会教育審議会に対する諮問について

今後の視聴覚教育のあり方について、八潮市社会教育審議会に諮問することについて、議決を求める。

令和4年6月23日提出

八潮市教育委員会教育長 井上 正人

提 案 理 由 今後の視聴覚教育のあり方について検討するため、この案を提出するものである。

【資料説明】

[質 疑]

○木下委員

16ミリフィルムは、学校等に貸し出して見られるとのことですが、個人的に借りて見られることは出来るのでしょうか。

●小林社会教育課長

視聴覚ライブラリーでの16ミリフィルムの貸出は団体を対象としておりません。最後に貸出を行ったのは平成30年度の1件で、それ以降の貸出はございません。

[教育長が採決を行い、出席委員全員の賛成により承認される。]

議案第33号 [説明者 小林社会教育課長]

八潮市立八條図書館及び八潮市立八條公民館（りら一と八條）に係る指定管理者候補者の募集要項並びに仕様書について

八潮市立八條図書館及び八潮市立八條公民館（りら一と八條）の令和5年度からの指定管理制度の更新に当たり、指定管理者候補者の募集要項並びに仕様書について、議決を求める。

令和4年6月23日提出

八潮市教育委員会教育長 井上 正 人

提 案 理 由 八潮市立八條図書館及び八潮市立八條公民館（りら一と八條）の令和5年度からの指定管理制度の更新に当たり、指定管理者候補者の募集要項並びに仕様書を定めるため、この案を提出するものである。

【資料説明】

[質 疑]

○加藤教育長職務代理者

仕様書に示されていない管理運営の項目が出てきた場合、改めて契約に盛り込まれることでよろしいのでしょうか。

●小林社会教育課長

協議の上、協定の中で定めることとなります。

[教育長が採決を行い、出席委員全員の賛成により承認される。]

議案第34号 [説明者 高山文化財保護課長]

文化財調査委員の委嘱について

文化財調査委員に別紙の者を委嘱したいので、八潮市文化財保護審議会等に関する規則（昭和63年教委規則第4号）第2条の規定により議決を求める。

令和4年6月23日提出

八潮市教育委員会教育長 井上 正人

提 案 理 由 新たに文化財調査委員を委嘱したいため、この案を提出するものである。

【資料説明】

[質 疑]

なし

[教育長が採決を行い、出席委員全員の賛成により承認される。]

議案第35号 [説明者 山内学務課長]

八潮市学校運営協議会委員の委嘱について

八潮市学校運営協議会委員に別紙の者を委嘱したいので、八潮市学校運営協議会規則第6条第1項の規定により議決を求める。

令和4年6月23日提出

八潮市教育委員会教育長 井上 正人

提 案 理 由 新たに八潮市学校運営協議会委員を委嘱したいため、この案を提出するものである。

【資料説明】

[質 疑]

なし

[教育長が採決を行い、出席委員全員の賛成により承認される。]

4. 各部課長報告・連絡事項

●荒浪教育総務部長

(1) 令和4年第2回八潮市議会定例会一般質問について

教育総務部関係では、川井貴志議員から「学校のプールについて」、小倉聖彦議員から「新設小学校の整備について」の質問がございました。

はじめに、川井議員の質問事項4「学校のプールについて」質問要旨1「令和3年3月議会の新設小学校のプールについての質問で、プールの上に体育館を作ってはとの提案をさせていただきましたが、体育館の屋上にプールを設置する旨のお話も伺っておりますが、以下についてお伺いします。」の①「プールの上に体育館を造った時と体育館の屋上にプールを作った時の建設費用の違いをお聞かせください」に対しては、「新設小学校の整備につきましては、令和8年4月1日の開校に向けて基本設計を進めており、令和4年5月に八潮市立小中学校施設建設委員会をはじめ、大曾根小学校や大瀬小学校の学校運営協議会やPTAの正副会長などに、プールや体育館、給食関係施設などの未確定部分を除いた基本設計案について、ご説明をさせていただいたところがございます。

ご質問の「プールの上に体育館を設置した場合と体育館の屋上にプールを設置した場合の建設費用の違い」につきましては、現在、基本設計の段階でございますので、具体的な金額についてはお示しできませんが、屋内プールを設置した場合にあらためて必要となる設備などがございます。具体的に申し上げますと、屋上プールの場合と異なり、天井や壁、窓のほか、屋内照明設備も設置する必要があります。また、屋内プール施設には、室内の温度・湿度やプールの水温を管理・調節するための設備も必要となります。このため、建設費用につきましては、屋上プールに比べて屋内プールの方が、一般的に高額となるものでございます。」と答弁しました。

同じく川井議員の質問要旨1②「プールの上に体育館を造った時と体育館の屋上にプールを作った時の維持管理費の違いをお聞かせください。」に対しては、「ご質問の「プールの上に体育館を設置した場合と体育館の屋上にプールを設置した場合の維持管理費の違い」についてでございますが、先程、答弁させていただいたとおり、屋内プールには、室内の温度・湿度やプールの水温を管理・調節するための設備等が必要となることから、これらの設備に係る維持管理費が

発生します。このため、維持管理費用につきましても、屋上プールに比べて屋内プールの方が、一般的に高額となるものでございます。」と答弁しました。

同じく川井議員の質問要旨1③「隣の潮止中学校との共同利用についてお聞かせください。」に対しては、「市内の小中学校の児童・生徒は、毎年6月から7月中旬までの約1か月半の期間に1学年、概ね8回程度、プールを使用している状況でございます。また、現在、整備を進めております新設小学校が令和8年4月1日に開校した時点の学級数は20学級であり、潮止中学校の17学級を加え、合計37学級になる見込みでございます。この合計37学級の児童生徒が約1か月半の期間中に概ね8回程度、プールを使用できるようなカリキュラムが組めないこと、また、授業時間につきましても、小学校は45分、中学校は50分という違いがございますことから、潮止中学校と新設小学校のプールの共同利用については難しいものと考えております。」と答弁しました。

同じく川井議員の質問要旨2「本市の小中学校もだいぶ老朽化が進んできておりますが、これは、本市だけでなく、全国的に起こってきている問題で、やはりプールも同様今後膨大な修繕費や改修費などがかかってくるかと思えます。以下についてお伺いします。」の①「民間のスイミングスクールとの連携についてお聞かせください。」に対しては、「ご質問の「民間のスイミングスクールとの連携について」でございますが、近年、学校施設のプールの維持管理費用の観点から、小中学校で行うプールの授業を民間のスイミングスクールへ委託するケースが見受けられます。市内の民間のプールの状況でございますが、八潮市内において運営している民間のスポーツクラブなどは、プールを設置しているところがございません。また、市内の幼稚園において小学生以上が利用できるプールを設置している園は、「八潮幼稚園」、「青和幼稚園」、「八潮ちくみ幼稚園」の3園でございます。この3園に小中学校の授業で園のプールが利用できるか確認したところ、「プールの規模が小さい」ことや、「学校に貸せる時間帯が少ない」などの回答がございましたので、現時点において、八潮市内の民間スイミングスクールとの連携は難しいものと考えております。」と答弁しました。

次に、小倉議員の質問事項3「新設小学校の整備について」質問要旨1「一年後ろ倒しになったこともあり、新設校の計画も大変改善されてきているようで

す。多くの意見も聞くように改善されてきています。そんな夢の新設校について以下伺います。」の①「一年後ろ倒しになったが、子供たちへの影響は。」に対しては、「令和7年度までは、新設小学校の母体校である大曾根小学校及び大瀬小学校において、教室不足が発生しない見込みであること、また、開校が翌年であるといった急を要することではなく、期間的に余裕があることなどから、令和8年4月1日に開校しても、両校の通学区域内の児童への影響は、特にないものと考えております。」と答弁しました。

同じく小倉議員からの質問要旨1②「学校給食ビジョンの中間報告から基本設計完了まで時間がないが大丈夫なのか。」に対しては、「学校給食ビジョンの中間報告が7月中となる見込みであり、大変厳しいスケジュールになるものと考えておりますが、遅滞なく事業を進められるよう努めてまいります。」と答弁しました。

同じく小倉議員からの質問要旨1③「転落防止や防災の避難経路、直射日光を遮る、植物のプランター置き場など利点が多くあるベランダの設置は考えているか。」に対しては、「市内の学校現場においては、安全のため、原則、児童がベランダに立ち入らないよう指導していると伺っており、新設小学校についても、ベランダは不要であるとのご意見を関係課からいただいているため、設置しない計画としております。」と答弁しました。

同じく小倉議員からの質問要旨1④「新型コロナウイルス対策でも重要な換気がしっかりできる設計になっているか。」に対しては、「各室に設置する換気扇や、外気に面する窓を開けることにより、十分な換気ができるものと考えております。」と答弁しました。

同じく小倉議員からの質問要旨1⑤「新設校建設はシティセールスの目玉になるものだと思いますが、いかがですか。」に対しては、「本市では、シティセールスを「市のイメージや認知度を向上させ、地域の活性化を図るために、市の様々な魅力を市内外へ効果的に発信していくこと」と定義しております。このことから、新設小学校の建設自体がシティセールスであるとは捉えておりませんが、日々、この学校を使う児童や教職員が、使い勝手が良く、快適に過ごせるような学習環境を整備したいと考えております。」と答弁しました。

(2) 令和4年5月分「市民の声ボックス」の受付及び処理状況について

教育委員会への投書は5件ございました。内訳としましては学務課2件、指導課3件でございます。内容が同一の質問の場合は、まとめてご報告させていただきます。それでは、各課からご報告申し上げます。

●山内学務課長

学務課に寄せられた投書は2件でした。

1件目は、「学校で出欠席の連絡を「リーバー（出欠席等を管理するアプリ：スマホから随時連絡可）」を使用して連絡するように言っておきながら、担当教師が見ていないのは問題ではないか？」という内容でした。

これに対しまして、「該当の学校に確認したところ、出欠席の確認が不十分であったと報告を受けました。ご指摘のとおり、毎朝、始業までにリーバーによる出欠席や連絡事項を担当が確認することが重要であり、活用方法やチェック体制の見直しとともに、運用する教員の意識も含め、改めて適切な運用となるよう、学校へ組織体制の見直しを指示」した旨回答いたしました。

2件目は、「昨年発生した、学校給食の容器に衛生害虫が入り込んだ件について、周知のあり方について問題がある」との内容でした。

これに対しまして、この方に以前、同様に回答した経緯があること、当時の状況と現在の対応についてお知らせし、再発防止に努めていることを回答いたしました。

●和田指導課長兼小中一貫教育推進室長

指導課に寄せられた投書は3件で、以前から電話や市民の声ボックスで繰り返しご意見をいただいている保護者の方でございます。内容の中には、学校生活や地域に関する問合せも含まれておりますので、時間をかけて対応していきたいと考えております。

●山本学校教育部長

(1) 令和4年第2回八潮市議会定例会一般質問について

学校教育関係では、金子壮一議員から「実態を捉えた人口ビジョンと自治体経営について」、池谷正議員から「大規模土地利用・古新田宅地造成について」、矢澤江美子議員から「学校給食について」、小宮弘子議員から「学校給食ビジョンについて」及び「学校給食費について」、内田亜希子議員から「子どもの健康を守る施策について」、小倉聖彦議員から「学校給食と給食費の集金について」の質問がございました。

はじめに、金子議員の質問事項1「実態を捉えた人口ビジョンと自治体経営について」質問要旨1「八潮市人口ビジョン（平成28年3月策定）によると、本市の人口推計は、令和7年まで増加が続くと予測しています。そこで、正確な人口動態を把握し、効果的な施策を展開することで、都市の発展を継続するために、以下4点に関して、伺います。」の③「駅周辺の小学校における入学予定数との乖離について」に対しては、「八潮駅周辺の小学校における入学予定数との乖離につきましては、駅周辺の小学校を潮止小学校、大曾根小学校、大瀬小学校とし、この3校の令和2年度から令和4年度までの過去3年間分の前年10月1日時点における入学予定数の合計と、実際に入学した児童数の合計との比較でお答えさせていただきます。令和2年度の入学予定数は3校合計で354名、実際の入学者数は3校合計で329名であり、乖離につきましては25名でございます。令和3年度の入学予定数は3校合計で382名、実際の入学者数は3校合計で366名であり、乖離につきましては16名でございます。令和4年度の入学予定数は3校合計で402名、実際の入学者数は3校合計で367名であり、乖離につきましては35名でございます。」と答弁しました。

次に、池谷議員の質問事項1「大規模土地利用・古新田宅地造成について」質問要旨2「137戸の戸建て住宅が建設される予定ですが、潮止橋以東の市立中川小学校学区域は、約1,600世帯、人口はおおよそ4,500人程です。この大規模開発が予定通り完成し、入居が完了すれば、戸建て住宅のおおよそ1割、仮に4人家族としても500人を超える人口が一気に増えることとなります。この地域はご存知のように中川と大場川に囲まれた袋状の地域で、この開発による多くの問題が予想されます。そこで伺います。」の③「今後、予想される中川

小学校の新転入学児童数の把握と受け入れ可能状況について」に対しては、「まず、中川小学校の新転入学児童数の把握につきましては、どのような家族構成の世帯が転入してくるか、事前に把握することが難しいことから、137戸の戸建て住宅について、入居の時期、家族構成等の状況を注視していく必要があると考えております。次に、受入可能状況につきましては、令和4年5月1日現在、中川小学校の全児童数は248人で12学級であり、137戸の戸建て住宅を含めず、現在の住民基本台帳をもとにした令和10年度までの児童数の推移では、今後も大きな増減はなく、概ね250人程度で推移していくことが見込まれています。そのような状況の中、現在の中川小学校には、普通教室に転用できる部屋が5室あります。また、1学級の最大児童数は35人で現在の各学級にも転入児童受け入れの余裕があります。以上のことから、あくまで現在の状況をもとに推測しますと早急に対応しなければならないという状況にはないと考えております。但し、戸建て住宅の整備が進み、一定程度の入居者数を確認した段階で、家族構成の傾向を把握し、改めて、中川小学校における児童の受入に懸念が生じないか、確認してまいりたいと考えております。」と答弁しました。

次に、矢澤議員の質問事項1「学校給食について」質問要旨1「ウクライナ危機や円安などで高騰する食材費や燃料費のため、学校給食もコストアップに直面しており、デザート回数を減らしたり、食材を変えたり工夫しても限界だとして値上げに踏み切る自治体も出ていると報じられています。言うまでもなく、児童生徒が連日食べる給食は摂取カロリーや栄養バランスが重要ですが、八潮市の状況について、以下2点伺います。」の①「八潮市の学校給食の現状（質、量）について」に対しては、「本市の学校給食におきましては、文部科学省が定めた学校給食実施基準に基づき実施しており、学校給食で提供する食物の栄養内容の基準につきましては、この学校給食実施基準の中で「児童又は生徒一人一回当たりの学校給食摂取基準」として定められていることから、この基準に沿って、市教育委員会の栄養士が献立を作成しているところでございます。この学校給食摂取基準では、エネルギーやたんぱく質、脂質等の区分におきまして、それぞれの摂取量が示されており、日々の学校給食で提供する献立につきまして、この基準に沿った内容とするよう努めております。ご質問の、本市の学校給食の現状における、その質と量につきまして、まず、質につきましては、教育委員会の

栄養士が、学校給食提供事業者の栄養士と、使用する食材について入念に打ち合わせを行い、安全性を保つことを最優先に考え、鮮度を保つのが難しい食材や成分の全てが明らかになっていない食材等は使用しないよう求めています。さらには、使用した食材における放射能濃度の測定を定期的に行っており、その結果は全て不検出でございました。また、量につきましては、重量に関しては学校給食摂取基準による規定はございませんが、エネルギー等に基づく献立でございますので、ある程度は、毎回の給食の量が平均的なものとなっております。

学校給食が予定どおり調理されているか、また、安全な状態で届けられているか等を確認する「検食」を教育委員会内で行う際に、併せて「おかず」の重量も量っております。直近で令和4年5月に本市の学校給食で提供した「おかず」の分では、1日当たりの平均の重量で、小学1年生から3年生の分が約116グラム、小学4年生から6年生の分が約136グラム、中学1年生から3年生の分が約153グラムとなっております。なお、米飯につきましては、毎回同じ重量になるものですが、標準で、小学1年生から3年生が約130グラム、小学4年生から6年生が約170グラム、中学1年生から3年生が約220グラムとしております。」と答弁しました。

同じく矢澤議員の質問要旨1②「文部科学省は、4月5日付けで、物価高騰に伴う学校給食費の値上げを防ぐため、新型コロナウイルス対応の地方創生臨時交付金を活用し、各自治体の判断で保護者の負担増を抑えることも可能とする事務連絡を発出しています。子どもたちの給食の質、量を確保するためにこの交付金を使う予定はありますか。」に対しては、「本年4月5日付け事務連絡で、文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課から発出されました「令和4年度における新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の取扱いについて」によりますと、「物価高騰に伴う学校給食等に関する負担軽減」を行う事業が示され、臨時交付金を活用することが可能とされております。本市におきましては、現在のところ、食材の購入において、質や量を減らしての対応としないような状況にはなく、学校給食費の値上げにつきましても予定しておりません。このような状況から、現在のところ、学校給食の質と量を確保するための交付金の活用は予定しておりません。」と答弁しました。

同じく矢澤議員の質問要旨2「7月にも中間報告が行われる学校給食ビジョンでは、給食提供方式の大まかな方向性が示されることになっています。その方向性の決定に当たっては、防災や地域経済の循環、高齢者等への食事提供など、複数の視点も加味すべきと考えますが、市の考えを伺います。」に対しては、「本市の学校給食の将来構想とする「八潮市学校給食ビジョン」の策定につきましては、本年7月末までに、給食提供方式の方向性を含めました中間報告（案）をお示ししたいと考えております。この学校給食ビジョンの策定にあたりましては、安全安心で持続可能な学校給食を実現することを念頭に置いており、防災や地域経済の循環、高齢者等への食事提供といった要素につきましては、現時点では考慮しておりません。今後、学校給食の提供方式が定まり、より具体的な計画を策定する際に、付帯する機能等について検討をすることが想定されます。なお、いかなる提供方式となった場合でも、地場産野菜等の活用につきましては、推進してまいりたいと考えておりますので、「地域経済の循環」につながるものと考えております。」と答弁しました。

次に、小宮議員の質問事項1「学校給食ビジョンについて」質問要旨1「学校給食ビジョン策定の進捗状況について」の「学校給食ビジョン策定にあたり、市内の児童・生徒・教職員の方々にアンケート調査を行い、あわせて、業務委託会社の学校施設等の現地調査が進められています。これまでの説明では、アンケートの個別記述の集計がまだ終了していないとのことでしたが、その後の進捗状況をお伺いします。」に対しては、「八潮市学校給食ビジョンの策定にあたり、本年3月に実施いたしました、学校給食に関するアンケートにつきましては、市内小中学校の全ての児童生徒と教職員を対象としたもので、回答者数が6,000人を上回る大規模なものでございます。このため、取りまとめには多くの時間が必要となり、現在も作業を行っている段階にあります。この中で、選択式部分と記述式・自由記載部分の集計を概ね終えている状況にございますが、それぞれのまとめや考察につきまして、現在手掛けているところでございます。また、本年7月末までにお示しする予定の、学校給食ビジョンの中間報告（案）につきましては、学校給食の提供方式の比較について、現在準備を進めております。具体的に申し上げますと、児童生徒数の今後の推計を基に、「モデル食数」を設定し、「単独調理場方式（いわゆる自校式）」「親子調理方式」「公設センター方式」、そ

して現在の本市の方式であります「デリバリー方式」につきまして、コスト面やそれぞれの課題等の、比較する部分について抽出する作業を続けております。特に、コスト面では、初期投資の部分だけでなく、ランニングコストにつきましても算出することとしており、現在、学校給食ビジョン策定支援業務を委託している事業者におきまして、積算しているところでございます。」と答弁しました。

同じく小宮議員の質問要旨2「新設小学校への給食調理施設の設置について」の「令和3年12月議会において、新設小学校での給食提供方法については、給食ビジョンの中間報告を受けて決定するとのことですが、現在はどのような状況かお伺いします。」に対しては、「新設小学校における学校給食の提供方式につきましては、本年7月末までにお示しする学校給食ビジョンの中間報告(案)で、その方向性について明らかにし、その内容により決定することとなります。このため、現時点では、新設小学校における給食調理施設の有無につきましては、回答を差し控えさせていただきます。」と答弁しました。

同じく小宮議員の質問事項2「学校給食費について」質問要旨1「学校給食費の食材費について」の「学校給食費の食材費については、保護者負担となっております。このところの物価上昇により、食材費の値上がりが懸念されます。文部科学省は、家庭支援策として、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を使って、学校給食費の保護者負担を軽減するよう要請していますが、八潮市では、給食食材費の上昇分は、どのように対処されますか。」に対しては、「本年4月5日付け事務連絡で、文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課から発出されました「令和4年度における新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の取扱いについて」によりますと、「物価高騰に伴う学校給食等に関する負担軽減」を行う事業が示され、臨時交付金を活用することが可能とされております。本市におきましては、現在のところ、食材の急激な価格上昇に伴う新たな費用負担が発生しておらず、また、今後の食材の価格の推移を想定することも困難でございます。このため、学校給食の食材費を対象とする交付金の活用は予定しておりません。」と答弁しています。

同じく小宮議員の質問要旨②「食材費の内訳について」の「八潮市学校給食食材料費収支決算報告書には、各月の合計額しか表示されていませんが、主食費や副食費の明細の表示はされないのですか。以前、給食委託契約書には、受注者は、

毎月の食材料費の使途を明確にするため、学期毎に発注者へ報告しなければならない。」とありましたが、報告されているのでしょうか。」に対しては、「八潮市学校給食食材料費収支決算報告書につきましては、各年度分の給食材料費と月毎の支出について記載しているものであり、学校給食費としてお預かりしている金額と同額が、学校給食の食材の購入に全て充てられていることをお知らせするものでございます。主食費や副食費の明細につきましては、食材購入費と同額である給食費が、食材購入費に充てられているのかを確認するため、一定の区分における金額の明細を提供することについて学校給食提供事業者に依頼し、教育委員会が受け取っているところでございます。実際に食材を購入しているのは学校給食提供事業者であり、現状では、明細に記載された金額のさらに細かい内訳につきましては把握することができません。このようなことから、現在のところ、食材費の毎月の合計額でお知らせしているところでございます。また、以前、学校給食の提供について委託契約を締結していた際の契約書に、「受注者は、毎月の食材料費の使途を明確にするため、学期毎に発注者へ報告しなければならない。」と記載があったとのご指摘がございましたが、これは契約期間が令和元年9月30日までの委託契約書において記載されていたものでございます。この契約条項に基づき、先ほどご説明した「一定の区分における金額の明細」について、給食提供事業者から提供を受けているものでございます。契約期間が令和元年10月1日以降の契約におきましては、消費税率の引き上げに対応して、本市が給食品を購入する方式となっております。そのため、契約の名称を「給食取引基本契約」とし、その契約書には、食材料費の報告に関する記載はございません。しかしながら、市が依頼をすることにより、引き続き「一定の区分における金額の明細」の提供を受けているところでございます。」と答弁しました。

次に、内田議員の質問事項1「子どもの健康を守る施策について」質問要旨1「近年、環境要因が子どもの成長・発達に与える影響を調査している環境省の「エコチル調査」結果では、「プラスチック添加剤による肥満の影響」「母親の染毛剤利用と子どもの喘息・アレルギー性鼻炎の関係」などが明らかになってきている。また、エコチル調査以外にも、農薬の使用量と自閉症・広範性発達障害との相関性等、様々なエビデンスが示されている。子どもの脆弱性を考慮したリスク体制について以下4点伺う。」の③「学校給食、保育園給食における食材への

配慮について」に対しては、「本市の学校給食につきましては、現在は民設民営による提供方式としており、詳しい食材の選定につきましては、学校給食提供事業者が行っております。食材の選定では、契約上、学校給食提供事業者が行いますが、使用する食材につきましては、教育委員会の栄養士が、学校給食提供事業者の栄養士と、使用する食材について入念に打合せを行い、安全性を保つことを最優先に考え、鮮度を保つのが難しい食材や成分の全てが明らかになっていない食材等は使用しないよう求めています。また、給食調理後2時間以内の喫食を徹底しているため、現在の学校給食の提供体制では、地場産野菜の使用が難しい状況にありながらも、令和3年度は、八潮産ネギ入り鶏丼や、八潮産長ネギと大根を使った味噌汁、八潮産長ネギ入り豚汁を学校給食で提供しており、可能な限り、安全で安心な食材を使用しつつ、児童生徒の興味を惹くメニューを提供しております。ご質問にあります、農薬等の使用制限に関する特記事項につきましては、契約上は、学校給食提供事業者との具体的な取り決めに関する記述はございませんが、学校給食を提供するものとして、安全安心な給食を提供することは、当然の責務であると考えておりますことから、引き続き児童生徒の健康に配慮した食材の選定に努めるよう、働きかけてまいります。」と答弁しました。

同じく内田議員の質問要旨1④「ゲノム編集企業が、ゲノム編集トマトの苗を福祉施設や小学校に無償配布することを計画しているがその対応について」に対しては、「ご質問いただきましたゲノム編集トマトの苗でございますが、現時点で「学校に無償配付された」「案内が届いた」という報告は受けておりません。今後も子どもたちの成長や発達を大切に、安全・安心な学校教育に努めてまいります」と答弁しました。

次に、小倉議員の質問事項1「学校給食と給食費の集金について」質問要旨1「多くの市民に被害がおよび、全国に知れ渡ってしまった、学校給食での集団食中毒が発生してから早くも2年がたとうとしています。前よりも衛生管理を徹底することにより、依然として同じ方法で同じような給食が提供されています。大きな事件が起きてしまったのにほとんど変わっていません。給食のおかずは冷たいままでもあります。冬などはお腹を壊さないか心配になります。今「八潮市学校給食ビジョン」が策定されている段階となっています。その学校給食について以下伺います。」の①「八潮市学校給食ビジョンの策定スケジュールを教え

てください。」に対しては、「教育委員会におきましては、本市の学校給食の将来構想とする「八潮市学校給食ビジョン」の策定に向けて、取組みを進めております。現在は、本年7月末までに中間報告（案）をお示しするための準備を進めているところでございます。今後のスケジュールにつきましては、給食ビジョン策定の進捗状況について、教育委員会や庁内の会議等で報告するほか、本年3月に全児童生徒及び教職員を対象に実施したアンケートの結果につきまして、取りまとめの結果をお知らせしたいと考えております。また、中間報告（案）をお示ししましたら、速やかにパブリックコメントを実施してまいりたいと考えております。その後、パブリックコメントで出された意見を踏まえて、必要な箇所を反映させるとともに、中間報告後に整理することとしていた部分について、対応してまいりたいと考えております。さらにその後につきましては、あくまでも現時点で想定しているスケジュールとなりますが、令和5年2月に「学校給食ビジョン（案）」について取りまとめ、3月にパブリックコメントを実施し、教育委員会への付議等を経まして、令和5年8月を目途に、学校給食ビジョンを策定することを目指しているところでございます。ただし、中間報告（案）や最終的な学校給食ビジョン（案）をお示しした後の状況によりましては、最終的な策定までに、より時間を必要とする可能性があるものと考えております。」と答弁しました。

同じく小倉議員の質問要旨1②「策定後のスケジュールはどのように考えているのか。」に対しては、「学校給食ビジョン策定後のスケジュールにつきましては、学校給食ビジョンが本市の学校給食の将来構想であることを勘案しますと、その実現に向けた取組みを早期に進めてまいりたいと考えております。しかしながら、学校給食の提供方式につきまして、中間報告でお示しすることとしており、現時点では、その事業規模なども想定することができません。このことから、学校給食ビジョン策定後のスケジュールにつきましては、お示しできないところでございます。」と答弁しました。

同じく小倉議員の質問要旨1③「給食アンケートの結果を見て現学校給食の課題は。」に対しては、「学校給食に関するアンケートを本年3月に実施し、現在は、選択式部分と記述式・自由記載部分の集計を概ね終えている状況にございます。特徴的な部分といたしまして、選択式部分では、「給食が好きか」との問い

に対し、「好き」と答えたのが、小学1年生から3年生では68%、小学4年生から6年生では40%、中学生では20%であり、学年が上がると「好き」の割合が大幅に減る結果となりました。このことから、学年が上の児童や生徒を対象に、本市の学校給食のイメージを向上させるための施策が必要であるととらえております。同じく選択式で、教職員を対象とした部分では、「副食（おかず）の温かさ」に対する感想で、36%がやや不満、42%が不満と答えており、合計しますと、78%の教職員が、「副食（おかず）の温かさ」に不満を感じているとの結果になりました。「副食（おかず）の温かさ」につきましては、これまで多くの意見をいただいておりますが、アンケート結果からも、その課題が明確になったところがございます。また、記述式及び自由記載の部分につきましては、献立や味に関して、多くの意見をいただいております。献立では、「好き」「給食に出してほしいもの」、そして「嫌い」「給食に出してほしくないもの」にさまざまな料理が挙げられました。この他、多種多様な意見が出されておりますので、その内容を精査し、学校給食の充実につなげてまいりたいと考えております。」と答弁しました。

同じく小倉議員の質問要旨2「給食費の集金では、児童、生徒が毎月のように5千円もの大金をもって登校します。登校の途中犯罪や事件にあってもおかしくありません。特に小学校1年生、6歳の子どもに持たせています。これは、とてもリスクを伴うことではないでしょうか。平成21年4月から口座引き落としから学校集金に変更されました。しかし、平成30年2月9日付で文部科学省から「学校における働き方改革に関する緊急対策の策定並びに学校における業務改善及び勤務時間管理等に係る取り組みの徹底について」で、「基本的には学校以外が担うべき業務」の1つとして「学校徴収金は、銀行振り込み・口座引き落としによる徴収を基本とし、その徴収・管理は学校ではなく、教育委員会事務局や首長部局が担っていくこと。」「教師の仕事にしないこと。」と通達されています。その給食費の集金について以下伺います。」の①「集金日の流れを教えてください。」に対しては、「集金日の流れといたしましては、各クラスの担任の先生が朝のホームルーム等で児童生徒が持参した集金袋を回収し、職員室に持っていき、全クラスから集まった集金袋を教頭先生又は事務職員が会議室

等に移動させます。その後、教育委員会の職員が学校を訪問し、会議室等で封筒の中身を確認し、集金袋の中の現金を回収します。回収後、集金額や当日集金ができなかった児童生徒についての記載がある一覧表を教育委員会事務局職員が作成し、学校へお渡しします。集金後は速やかに教育委員会事務局職員が銀行へ向かい、集金した現金を市の歳入に入金いたします。」と答弁しました。

同じく小倉議員の質問要旨 2②「給食費の集金において、問題、トラブルは起きていないのか。」に対しては、「給食費の集金に係る事故やトラブルにつきましては、令和 3 年 1 2 月議会でも、事故やトラブルの報告を受けた事例はない旨の答弁をさせていただいておりますが、その後におきましても、教育委員会が把握する限りでは、事故やトラブルの報告は聞いておりません。」と答弁しました。

同じく小倉議員の質問要旨 2③「給食費の集金において、課題や現状の問題はなにか。」に対しては、「給食費の集金に係る課題や現状の問題でございますが、公金の取扱いに関しましては、教育委員会事務局の職員が行わなければならないものでございます。そのため、先生方には給食袋の中身を確認してもらうような事務負担が発生しないように対応しております。実際に、児童生徒から封筒を集める業務につきましては、各担任の先生にお願いせざるを得ない状況となっているところが課題であると考えております。しかし、給食費の集金に際しまして、全く面識のない教育委員会事務局職員が対面で接触することは、児童生徒及び保護者にとって、違和感や戸惑いを持たれる方も多くいらっしゃるものと考えられますので、先生方のご協力が必要となってくるものと認識しております。そのような状況におきましても先生方の負担にならないよう、封筒の中身の確認、納入できていない方の把握についての業務を先生方が行わないように配慮し、教育委員会事務局職員が全て行っているところでございます。また、学校での集金の現状といたしましては、この方式とすることにより、新型コロナウイルス感染症による欠食及び新型コロナウイルス感染症による学級閉鎖があった場合には、児童生徒一人ひとりの給食費の減額につきまして、1 日分から即時に減額することが可能となっております。この丁寧な対応により、保護者の経済的負担を減らすことが実現されているところでございます。給食費を口座引き落と

しにいたしますと、引き落とし処理から実際の引き落とし日までに2週間以上の時間を要することとなります。また、口座引き落とし額を個々でそれぞれ変更することは、事務量的にも大変難しいものと考えております。1日分から新型コロナウイルス感染症による欠食の減額を行うことは、学校での集金だからこそ対応できる強みであると考えております。以上のことから、学校での集金の現状としましては、先生方の負担はありますが、学校での集金ならではの保護者の経済的負担の軽減も実現できているところでございます。」と答弁しました。

同じく小倉議員の質問要旨2④「給食費の集金は誰の仕事か。」に対しては、「給食費の集金は、教育委員会事務局が行うべき業務であるにとらえております。」と答弁しました。

同じく小倉議員の質問要旨2⑤「銀行振り込み・口座引き落としにするべきではないのか。」に対しては、「給食費を現金徴収から銀行振り込み・口座振替に変更することにつきましては、令和3年12月議会におきましても、他の議員から同様の質問を受けてございます。その際には、「以前は多くの学校が口座振替による集金方法で行うことが多かった時もありましたが、非常に滞納が多く、徴収に大変苦慮し、現場の負担は計り知れない状況にありました。その後、現在の現金での集金に変えたことで、大きく改善した経緯があることから、現在のところ、市内全小・中学校において、給食費を含むすべての集金について、徴収方法を見直す考えはございません。」と答弁させていただいております。実際に、学校での集金にしてからは、収納率が99.8%を割った年が無く、収納率が非常に高い水準を保っています。この成果は、学校での集金によるもの及び先生方のご協力の賜物であるにとらえております。また、令和2年の食中毒事故以降、アレルギー以外でも牛乳のみを飲用することや食事のみを喫食することを認めることとしております。この結果、年度途中で給食の食べ方を変更する児童生徒も頻繁にあり、給食費が児童生徒により違う場合が多々ある状況がございます。給食の食べ方の変更については保護者から学校へ変更届を提出し、学校から教育委員会へ報告してもらう流れとなっており、リアルタイムで把握することが出来ません。このような状況で口座引き落としデータを2週間以上前に確定させ、約6,500人分の個々によって違う給食費の口座引き落としを適切に行うことが、非常に難しい状況もございます。学校集金にしていることにより、牛乳の

みの飲用や食事のみの喫食の給食費の徴収が出来ている現状もございますことから、徴収方法を見直す考えは、現在のところはございません。」と答弁しました。

同じく小倉議員の質問要旨 2⑥「平成 21 年の学校集金への変更は収納率の向上のため変更されたとおもいます。しかし、学校で集金すれば未納者が分かり、子供が恥ずかしい思いをします。これは教育上まずいことではないでしょうか。また、生活保護の家庭の子どもには封筒さえも渡されない場合があり、生活保護の家庭の子どもだとみんなに分かってしまいます。これも人権上大きな問題となります。子供たちを守るためにも変える時ではないでしょうか。」に対しては、「給食費を学校で集金しておりますが、納入できていない方がわかるような仕組みとはしておりません。封筒を忘れてしまう児童生徒がいたとしても、他の児童生徒がいる前で、催促するようなことはしていません。また、生活保護や準要保護により、給食費が免除されている世帯に対しても、集金袋を配付し、他の児童生徒と同じように集金袋を返却することなど、特定されないよう配慮を行っております。給食費の口座引き落としにつきましては、先程も答弁いたしましたように、検討していく必要はあると考えますが、現状では、新型コロナウイルス感染症に感染した場合の欠食及び学級閉鎖による欠食を 1 日単位で減額していること及び年度途中での食べ方の変更を認めていること等を考慮し、当面の間は現状の方法で徴収してまいりたいと考えております。しかしながら、新型コロナウイルス感染症による給食費の影響が無くなった場合には、令和 3 年 12 月議会でも答弁させていただきましたように、「生活様式の IT 化や感染症対策としての非接触型対応機器の浸透などにより、電子決済や電子マネーが一般に大きく普及してきております。今後、集金業務のキャッシュレス化については、時代の潮流とともに、保護者の声に耳を傾け、近隣市町の動向を注視しながら、実現の可能性について調査」してまいります。なお、徴収方法を変更する際には、混乱が生じないように保護者の方々や先生方に丁寧に説明を行いながら、変更する必要があるものと考えてございます。」と答弁しました。

(2) 市内小・中学校の様子について

新型コロナウイルスの陽性者数は、落ち着いた状況となっております。週ごと

の陽性者数ですが、5月30日の週が3名、6月6日の週が2名、13日の週が2名、20日の週が6名となっております。

現在、学校総合体育大会の地区大会が越谷市と合同で開催されておりますが、大きな感染があったという報告も受けておりません。各競技工夫されており、体育館で行うものについては一度に全ての学校が入らないよう、屋外で待機するなどの取り組みを行っております。

学校行事も徐々に進み出しております、修学旅行や林間学校についても各学校から承認依頼が提出されております。感染症対策の徹底など保護者への周知も行ったうえで実施しております。

マスクの着用についてですが、登下校では人との距離があり、会話をしなければ外して良いことや、運動時は外して良いことを細かくアナウンスをしておりますが、子どもたちにも不安な気持ちがあるようで、全員が外すという状況にはなっておりません。小学校の運動会では、競技の際は外しましょうといったアナウンスをこまめに流していました。

●千葉教育総務部副部長兼教育総務課長

(1) 「八潮の教育」について

八潮の教育については毎年発行しておりますが、今年度も関係機関にご協力をいただき、現時点で校正したものを配付させていただきました。委員の皆様方におかれましては、ご意見等がございましたら、6月30日（木曜日）までにご連絡をいただければと思います。その後、7月末を目途に製本し、委員の皆様にはあらためて完成したものを配付させていただきます。

●小林社会教育課長

なし

●高山文化財保護課長

(1) 資料館講座「学芸員の仕事体験」の実施結果について

今回の講座は、資料館がどのような施設で、日頃どんな活動を行っているのかをご理解いただくことを目的に開催いたしました。館職員が講師となり、資料調査や解説キャプションの作成等、展示業務の疑似体験や収蔵資料の整理保管状況の見学を行いました。参加人数は13名で、SNSによる情報発信効果もあってか大阪府からの参加者もございました。講座終了後に寄せられたアンケートの感想も概ね好評で、資料館活動に対する市民理解の浸透につながったものと考えております。

(2) 第89回歴史講座の実施結果について

今回の歴史講座は、市内文化財3件が国登録文化財に登録されたことを記念し開催したもので、6月18日に記念講演会、19日に国登録文化財八條八幡神社本殿、恩田家住宅主屋・蔵の見学会を行いました。18日の講演会では、八條八幡神社本殿について理解を深めていただくため、本市の文化財保護審議会委員で日本建築史や社寺彫刻の専門家である小柏典華氏を講師に招聘し、ご講演いただきました。講演内容は、八條八幡神社本殿の文化財的価値と観察方法についてのお話とともに、その理解に必要な社寺建築の様式の変遷について解説するものでした。19名が参加し、受講後のアンケートでは「彫刻の見方を知りうれしく思いました。」「建築の奥深さを理解できました」といった感想が寄せられ、文化財建造物や社寺彫刻の基本的観察方法をご理解いただけたものと考えております。また、19日の見学会は、午前中の八條八幡神社見学会参加者数が、第1回目8名、第2回目13名、午後の恩田家住宅主屋・蔵の見学会参加者数が10名でした。見学会では、当課職員が案内役となり、それぞれの文化財が有する建物の特徴、注目すべき建築技法や意匠等について詳細な解説を行いました。今回登録された文化財について理解を深めていただくとともに、地域に遺る様々な文化財に対しても改めて見つめ直す機会になったと考えております。

●山内学務課長

(1) 令和3年度学校給食費収納状況について

資料の表面は、小学校の4月から3月までの「収納額・未納額・収納率」の一覧となっております。右下にございます収納率は「100%」でございます。また資料の裏面は、中学校の一覧となっており、収納率は「99.87%」となっております。このページの右下が、今年5月31日までの、小中学校を合算した「まとめ」でございます。収納率は「99.95%」、未納額は「129,200円」。先月は、5月23日現在の数値・金額でございましたが、その後、5月31日までの間に入金処理があり、若干数値の変更がございました。

(2) 学校給食に関するアンケート調査の結果について

表紙に記載がございましたが、「考察」の部分につきましては、現在、最終的な調整・確認段階にありまして、本日はお示しすることができませんが、近日中に「考察」を含めた報告書の体裁にできるものと考えております。表紙をおめくりいただきますと、目次がございます。はじめに、「1 アンケート調査概要及び回答率」について、1ページと2ページにまとめておりまして、具体的なアンケート結果につきましては、3ページ以降となります。3ページをお開きいただきたいのですが、まずは小学校1年生から3年生のアンケート結果でございます。アンケート結果の特徴的な部分につきましては、本年の第4回定例会で、速報値として、ある程度お知らせしていたかと存じますので、本日は、各質問で一番回答が多かった回答を中心に、ご説明いたします。小学校1年生から3年生につきましては、担任の先生が質問を読み上げて、該当する回答の際に児童が「手を挙げる(挙手する)」という方式で実施いたしました。問1の「給食は好きですか？」の質問では、好きが「68%」で一番多い回答でした。4ページは、問2で、「給食が好きな理由」です。複数回答ありの項目ですが、「おいしい」が54%で一番多く、率としては、「ご飯やスープが温かい」も54%でした。5ページは、問3で「給食が嫌いな理由」です。複数回答ありで、「嫌いなものや苦手なもの

が出る」が17%でした。6ページは、問4で「給食を残すことがありますか？」に対しまして、「ときどき残す」が52%でした。7ページは、問5で「給食を残すことがある人に聞きます。給食を残す理由を教えてください」です。複数回答ありで、「嫌いなものや苦手なものが出る」が66%でした。9ページは、問6で「給食で好きなメニューを教えてください」です。複数回答ありで、「デザート」が82%、「カレーライスのようにスプーンで食べるもの」が76%、「パン」が71%の順でした。11ページからは、「小学校4年生から6年生」と「中学生」のアンケート結果になります。質問項目は共通でございます。問1の「学校給食は好きですか？」では、小学校4年生から6年生では「好き」が41%、中学生は、「どちらでもない」が47%でした。12ページの間2では、「問1で好きと答えた方に聞きます。学校給食が好きな理由についてあてはまる番号をすべて選んでください」です。複数回答ありです。小学校4年生から6年生では「おいしい」が72%、中学生も「おいしい」が67%でした。次に14ページです。問3です。「問1で嫌いと答えた方に聞きます。学校給食が嫌いな理由について、教えてください。」で、複数回答ありです。小学校4年生から6年生では「おいしくない」が69%、中学生も、「おいしくない」が86%でした。次に、17ページです。問4の「学校給食を残すことがありますか？」では、小学校4年生から6年生では「ときどき残す」が43%、中学生も「ときどき残す」が38%でした。18ページは問5です。「問4で学校給食を「ときどき残す」または「いつも残す」と答えた方に聞きます。学校給食を残す理由を教えてください。」では、複数回答ありで、小学校4年生から6年生では「嫌いなものや苦手なものが出る」が71%で、中学生は19ページにあります。「嫌いなものや苦手なものが出る」が63%でした。次に21ページです。問6では、「学校で好きなメニューは何ですか？」に対しまして、複数回答ありで、小学校4年生から6年生では「カレーなどの丼ぶり物」が68%、中学生も、「カレーなどの丼ぶり物」が63%でした。この他、自由記述欄も設けておりますので、たくさんのメニューが出されています。逆に、「魚料理」や「サラダ」「煮物」は、やや人

気がないようです。続きまして、24ページです。問7で、「八潮市内や埼玉県内で採れる野菜について教えてください」では、複数回答ありで、小学校4年生から6年生では「おいしい野菜であれば、どこで採れた野菜でも食べたい」で61%、中学生も、「おいしい野菜であれば、どこで採れた野菜でも食べたい」で72%でした。次に26ページです。問8は「現在はおかずが食器に盛り付けられています、自分達で盛り付けることになったらどう思いますか？」で、複数回答ありです。小学校4年生から6年生では「温かいおかずが食べられるのであれば、自分たちで盛り付けてもいい」が56%、中学生も同じで58%でした。次に28ページです。問9は「学校給食を調理している様子を見てみたいと思いませんか？」では、小学校4年生から6年生では「自分達が食べている学校給食をつくる場所を見たことがないため、見てみたい」で50%でした。中学生は、「特に見たいと思わない」で52%。次は30ページです。問10では、「学校給食の感想について」です。小学校4年生から6年生では「今の食器で特に問題はない」が73%、中学生も「今の食器で特に問題はない」で78%でした。32ページ以降は、問11での「給食全体への感想や意見」についての自由記述です。小学校4年生から6年生では、合計で1,549件、中学生では合計で1,156件の感想や意見が寄せられました。通常、このようなアンケートの自由記載部分は、かなり大枠でまとめて同様の感想等で何件、といった表現をすることが多いかと思いますが、今回は、できるだけ多くの意見をそのまま記載したいと考えまして、このようなまとめ方としました。このような大規模な「給食に関するアンケート」は、なかなか実施することができません。また、少ない意見でも、貴重な意見があると考え、多くのページを使い、まとめました。中には、大変感謝をしていただき、うれしくなる感想も多くいただきましたが、一方では、かなり厳しいご意見もいただいておりますが、真摯に受け止め、今後の学校給食に役立ててまいりたいと考えております。なお、個別の商品名につきましては、支障がございますので、例えば「乳酸菌飲料」といった表現にしている部分もございます。続きまして、教職員のアンケート結果でございます。42ページの問1で

は「現在の学校給食の味付けは児童生徒にとって適当であるか」については、「適当である」が51%でした。43ページの間2は、「学校給食を食べる時間の感想」で、「適切である」が49%でした。間3は、「副食・おかずを保温食缶に変更すると仮定した場合、児童生徒自身が副食（おかず）を盛り付けることになり、給食全体の時間が長くなることが予想されることについて」では、「給食の時間が多少長くなっても変更した方がよい」で65%でした。45ページの間4は、「学校内での現在の給食の課題」につきましても、「学校において大切な教育の分野である「食育」の充実をもっと図るべきである」で47%でした。その次が、「学校施設の老朽化等で学校内の衛生面に懸念があり、異物や小さな虫等が混入する危険が避けられない」で40%でした。47ページの間5は、多くの項目を5段階で評価していただいたものですが、「副食（おかず）の温かさ」に対する「やや不満」が36%、「不満」が42%であり、不満の割合が特に多いことが特徴でございます。50ページの間6は、「魅力ある学校給食とするためにどのような取り組みが必要であるか」に対しましては、複数回答ありで、「温かい副食（おかず）を提供する体制づくり」が78%でした。最後、52頁の間7は、「給食全体の感想や意見」で自由記述となっています。合計で284件の感想や意見をいただきました。無記名で、匿名性に配慮した調査でございましたので、忌憚のない意見が出されております。教職員の視点、大人の視点という面も、大変重要なことであると考えます。ぜひ一度、お時間をとっていただいて、ご覧いただければと存じます。現在は、選択式、記述式の部分のまとめまで終えたところでございますが、この後、考察の部分を加えまして、完成という運びになります。アンケートの結果につきましては、以上でございます。

次に、学校給食ビジョンについて少しだけ状況報告をいたします。

「八潮市学校給食ビジョン中間報告（案）」につきましては、盛込む内容につきまして、ほぼ揃った状態でございます。現在は、「表現の仕方の検討」「記載事項の確認作業」を続けており、こちらも、あと少しで、中間報告（案）がまとめ

る見込みでございます。この中間報告（案）につきましては、当定例会におきましてお示しすることになりますので、現在準備を進めております。

このほか、学校給食関係では、明日6月24日（金）、草加市の学校給食の視察を予定しております。教育委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中恐縮でございますが、ご参加を賜りたくお願い申し上げます。

また、学校給食関係では、7月1日（金）に、第三者機関による衛生検査が行われます。今回、検査の対象となる施設は、東部給食センターと八條小学校、八幡小学校、松之木小学校、八條北小学校、大原小学校、八條中学校の6校です。

●和田指導課長兼小中一貫教育推進室長

（1）令和4年5月・6月 事件・事故報告について

事件・事故については、器物破損や迷惑行為等が4件、家出が2件、学校内での事故が1件、不審者情報が1件、虐待の疑いが1件ございました。

3番の建造物侵入につきましては、実際には未遂で終わっており、校舎内へは侵入しておりません。家出につきましては、家庭環境が複雑であることから、児童相談所等と連携をしながら対応を進めております。4番の学校内での事故につきましては、先日、天候が不安定な日何日か続いた日ございましたが、突風でハンドボールゴールが倒れ、女子生徒がケガをした事故でございます。念のため救急搬送を行い、検査を行いました。脳と骨には異常はありませんでした。この女子生徒は、元気に登校しているという報告を学校から受けております。

また、再発防止対策につきましては、事故後に指導主事が学校を訪問し、状況を確認いたしました。その上で、現在はハンドボールゴールの重りを増やし、さらに杭を打った状態で練習を行っております。

（2）令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査について

いじめ、暴力行為、不登校についてのまとめでございます。こちらは、年に2

回行われている調査の結果をまとめたもので、令和4年4月に実施された結果は、令和3年度の数值ということになっております。1つ目の表、暴力行為につきましては、減少傾向でございます。2つ目の表、いじめにつきましては、積極的な認知、小さいいじめも見逃さない対応を各学校にはお願いをしております。それを受けて、認知件数につきましては増加しておりますが、解消率は100%となっております。3つ目の表、不登校につきましては、ここ数年、増加傾向でございます。R3の発生率は、八潮市が小中一貫教育を導入した当時とほぼ同程度となっております、危機感を持っております。

八潮市教育委員会といたしましては、校長会や生徒指導主任会等で情報を共有し、対応策の検討、実施を進めてまいります。

●菅谷学校 ICT 推進課長

(1) 八潮市 GIGA スクール通信 (第27号)

5月25日付けで発行した第27号では、4月28日に行いましたグーグルコアPlus研修につきまして、資料下段に明示してありますグーグルキックスタートプログラムに基づき、主にプレ研修やコア研修を受講された先生方を対象に、活用拡大に向けた研修会を実施したため、周知をしたものです。

(2) ICT 活用に関する意識調査について

教職員を対象とした意識調査は昨年度もこの時期に実施をしておりますが、1人1台端末である Chromebook が導入され、1年以上が経過したことから、授業や授業以外での活用状況、今後の研修への参加希望など、現場の先生方の要望や課題を把握するため、13日付けで実施したものです。

なお、この調査結果を踏まえ、来月中旬頃に各学校を訪問し、管理職の方にヒアリングを実施したいと考えています。

(3) その他

1点目ですが、先月行われた運動会・体育祭についてです。

学校 ICT 推進課では日程の都合上、全ての学校を訪問することは出来ませんでしたが、全9校を参観させていただき、その際、chromebook などを活用していた学校が数校ありました。活用の内容としては、競技の得点の集計に chromebook を活用していた学校や、ゴールテープ付近にビデオカメラを設置し、ゴールの映像を chromebook で確認するといった学校、校舎等から競技(校庭)の様子を撮影・配信し、その様子を普通教室や職員室に設置された電子黒板などで観覧するといった状況です。この活用例や運動会・体育祭などの場面での活用が可能と思われる取組に関しましては、今月の校長会でも周知を行い、情報の共有を行っています。

最後に、県で実施をしております現職教員ネットワークについてです。

こちらは、先月の教育委員会でご報告をさせていただいた内容でございますが、今年度から新設されました「ICT 部会」の各ブロックから参加者が決定し、今月2日に開催されました第1回目の協議会に、全ての先生が参加をいただきました。参加者につきましては、八潮中学校の田中先生、大原中学校の加治原先生、八條小学校の矢野先生、柳之宮小学校の郡司先生、潮止中学校の平井先生の5名となっています。

[教育長諸報告及び部課長報告・連絡事項の一括質疑]

○高橋委員

恩田家住宅と八條八幡神社が国登録文化財に登録されたことについて、その後の反響などはありましたか。

●高山文化財保護課長

見学の問い合わせは多くいただいております。恩田家住宅は所有者の方がお住まいですので非公開でございますが、八條八幡神社本殿は公開しておりますので、ご案内差し上げているところでございます。

○加藤教育長職務代理者

国登録文化財登録記念事業に参加しました。説明があり非常にわかりやすかったです。

○田口委員

学芸員の仕事体験が凄く良かったと感じました。今までと違い参加している方に若い方が多かったので、興味を持ってもらえる良い機会だと思いました。今後も継続してもらいたいです。

○木下委員

給食の関係になりますが、地場野菜について、教育委員会の方が子どもたちに地場野菜を食べさせたいと思っけていても、提供していただける農家の方や農協の方などに対して、八潮で子どもたちに食べてもらうために準備をしようとする意識改革のようなものが必要になると思うのですが、どのようにお考えでしょうか。

●山本学校教育部長

同じような質問が市議会でもございましたが、仕組みづくりも必要になると思います。農家の方から提供してもらった野菜を、どのように洗浄し納品するのか、といった課題もあります。議会の再質問でも答弁しておりますが、給食提供方式の仕組みが変わるタイミングで色々変えていけると良いと考えております。

○木下委員

地場野菜に拘るのであれば、学校給食もそうですが、家庭でも八潮の野菜を食べさせたいという家族の思いが一番大事なのではないかと思ひます。食育の中で子どもが八潮の野菜を食べたくなるような教育をすることで、八潮の野菜を食べたいということ子どもが家族伝え、家庭でも口にする機会が増えれば、新鮮な野菜の美味しさを子どもに伝えることができると思ひます。

○田口委員

給食のアンケート結果の中で、教職員の方々でも食べる時間について適切と感じている方と短い若しくはやや短いと感じている方が半分半分であることに驚きました。今後、配膳方法が変わる場合はこの辺りの時間についても配慮してもらいたいと思いました。

●井上教育長

私は教員時代、越谷市や三郷市の学校にもいたことがあり、八潮と違った配膳方法も経験しています。配膳方法が変わることで最初は戸惑いもあり時間がかかると思いますが、慣れていくことで短く感じることも無くなっていくと考えています。短く感じる原因としては、4時間目の授業が体育や音楽であったり、自分たちの教室以外で行う授業だと移動の時間があり短くなってしまうこともあります。しっかり分析して対応を検討させていただきます。

○木下委員

市議会の質問であった学校給食費の集金についてですが、私自身子どもが学校に通っているときに丁度切り替わりのタイミングでした。PTAからも子供に現金を持たせるのは大変ではないかなど様々な意見がありました。過去を知らないで、どういった経緯で現金集金になっているのかが分からないと思うので、答弁の中ではありますが知っていただく機会になったのではないのでしょうか。当時の理事会の中での話しになりますが、学校側も苦渋の選択でした。本当は引き落としのままが良いが、収納状況も良くないため、仕方なく現金集金になりました。子どもたちのことを一番に考えて積み重ねてきた結果、今があると思っています。

[教育長が定例会閉会の宣言をする]

会議終了。